

優秀賞

「愛するということ」 エーリッヒ・フロム(紀伊國屋書店)

フードビジネス学科 前野愛友

今世謳われている愛とはなんでしょう。本書が言わんとするのは、愛とは「感情」ではないということ、愛することとは能力であり、習練が必要な「技術」であるということです。この時点で既に難しそうな内容だと感じたかもしれません。それは否定しません。なぜなら本書はあなた自身が「考える」ことが大切だと説いているからです。

本書で説かれている「愛」とは「LOVE」ではなく「LIFE」ではないかと思うのです。文章はとても順序立てて書かれており、わかりやすい。「だからこう考えられる」という根拠がしっかりと示されています。考えてみれば当たり前前であること、しかし現代社会で生きる私たちが見落としているもの、いや見えなくなってしまうものとは何かを、はっきりと言葉にしてくれています。「愛するとは何か」を通して筆者は、現代社会への批判や人間そのものへの洞察を記しているのです。

筆者はこう言っています。愛とは世界全体とどう関わるかという態度であると。そして愛するという技術の習練には、勇気、信念、規律を備えなければなりません。ではその筆者の言う勇気、信念、規律とは一体なんでしょう？客観性とはなんでしょう？忍耐とはなんでしょう？利己主義と自己愛の違いとはなんでしょう。それらが普段哲学書を読まない人であっても、わかりやすい簡潔な言葉で書かれています。

また、本書は各国でベストセラーを記録している人気書です。しかし、本とは人生の模範解答書ではありません。あなたは答えを与えられ、レールの上を走るロボットではありません。あなた自身がこの文を読むことで、考えるのです。考えることから逃げない。それを教えてくれるのが本書です。人間、社会、愛、そしてあなた自身の生き方を考える「きっかけ」としてこの本を手にとってみてください。